

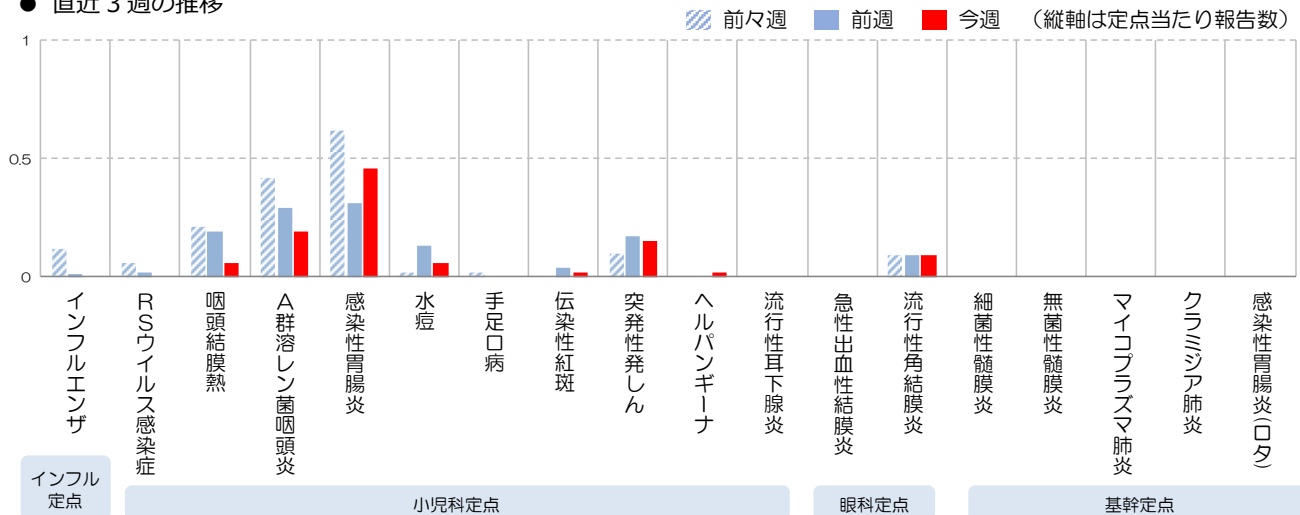
今週の主な動向

○5月10日までに、県内で150例の新型コロナウイルス感染症患者が確認されています。感染拡大の第2波を抑制するため、引き続き密閉・密集・密接の条件を避けることが重要です（下記参照）。

定点把握対象疾患

<インフルエンザ定点：87か所、小児科定点：53か所、眼科定点：11か所、基幹定点：5か所>

● 直近3週の推移



全数把握対象疾患

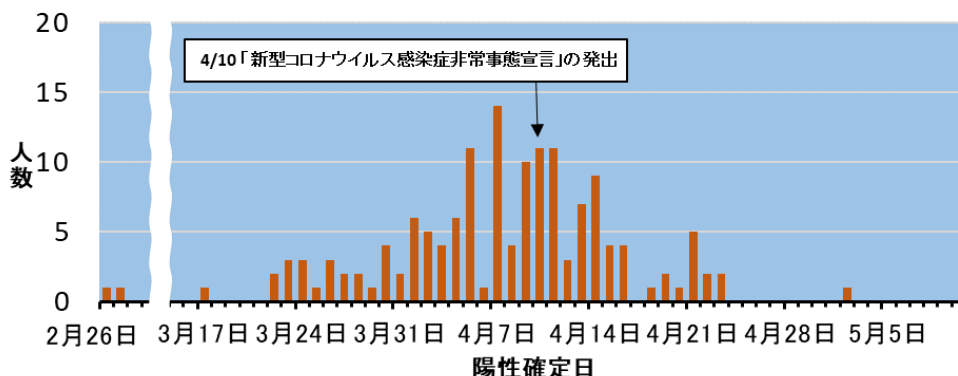
● 新規報告分

- 1類感染症：なし
- 2類感染症：結核 4例
- 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1例
- 4類感染症：なし
- 5類感染症：百日咳 1例
- 指定感染症：新型コロナウイルス 4例

トピック：新型コロナウイルス感染症

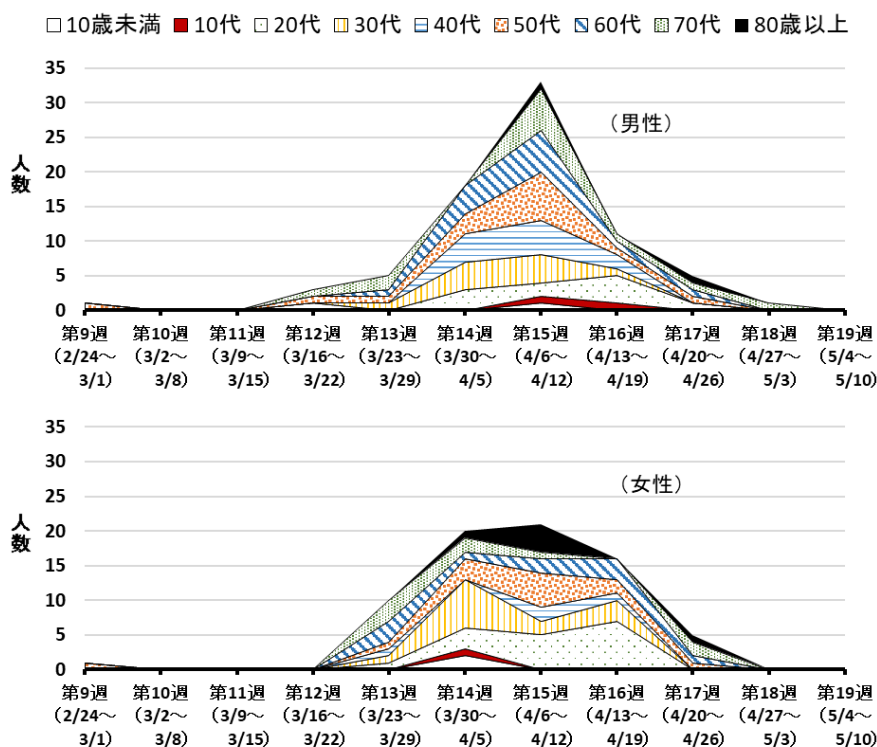
県内で確認された150の症例について、その発生の推移をグラフ化すると下記のようになります。（5月10日午後4時30分現在）。

岐阜県における陽性確定者発生の推移



この推移を年代毎に各週でまとめると次頁のグラフのようになります。

岐阜県における陽性確定者発生の推移(週別・年代別)



上図をみると、男性と女性では発生の推移に年代毎で違いが認められます。男性の場合は、20代から60代にかけて増加の割合は同程度ですが、女性の場合は第14週では30代の割合が高く、2週間後の第16週では20代の割合が高くなっていることが認められます。

岐阜県において新型コロナウイルス感染症非常事態宣言が発出された4月10日以降、その感染抑制に対する効果が見込めるのは、その翌週である第16週以降が考えられます。上図をみると、男女ともに第16週以降は全ての年代で陽性確定者の数が急激に減少しており、全ての世代において感染抑制への取り組みが進み、その効果が現れていることが示されています。

現在、国及び岐阜県では、新型コロナウイルスの第2波を警戒して引き続いての感染抑制への取り組みをお願いしています(新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の5月31日までの期間延長(5月4日))。感染防止対策に引き続き努めていただくことは、日常生活において様々な制限を受け、それに伴う負担も当然大きくなってまいります。しかしながら、これまで全世代での取り組みによって得られた成果を無に帰すと、さらに負担を受ける期間が長引くことになってしまいます。そのようなことの起こらぬよう、引き続き県民のみなさまにはこのことをご理解いただき、日々の生活での感染防止対策に努めていただくことをお願いいたします。

(参考) 岐阜県 HP「新型コロナウイルス感染症【県内の感染動向】について」

https://www.pref.gifu.lg.jp/kinkyu-juyo-joho/shingata_corona_kansendoko.html

※ 感染予防と感染拡大防止のための対策として、手洗い、咳エチケットを徹底しましょう。発熱や咳などの症状がある場合は外出を控え、また日常においても不要不急の外出は控えましょう。

これまでのデータから、集団感染が起こりやすいのは以下の条件がそろった時との報告がされています。

1. 密閉空間(換気の悪い密閉空間である)
2. 密集場所(多くの人が密集している)
3. 密接場面(互いに手を伸ばしたら届く距離での会話や発声が行われる)

このことから、感染のリスクを低減させるためには、これら3つの密が重なる条件(3密)を避けることが重要です。

※2020年4月16日、政府の新型コロナウイルス感染症対策本部は、4月7日に宣言した緊急事態措置を実施すべき区域をそれまでの7都道府県から全国に拡大させ、更なる感染拡大を防止するための協力を国民のみなさまに要望しました。